

証券コード：3422

株主通信

第52期 中間決算のご報告
2009年4月1日から2009年9月30日まで



株式会社 **丸順**

株主の皆様へ



取締役社長

今川 喜章

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび当社第52期第2四半期連結累計期間（2009年4月1日から2009年9月30日まで）を終了いたしましたので、営業概況及び第2四半期決算のご報告を申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2009年 11月

事業の概況

1. 第52期第2四半期の連結業績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、生産活動の低迷や失業率の上昇など、依然として厳しい状況にあるものの、在庫調整の一巡や財政・金融政策の実施で経済の回復が図られたことにより、徐々に景気の持ち直しの兆しが見えてまいりました。

当社グループが属する自動車業界におきましては、国内では環境対応車に対する税の減免措置等が自動車販売の回復に寄与するなど一部に明るい状況はあるものの、輸出も含めた生産は引き続き低迷しております。海外におきましては、アジアでは内需の拡大を背景に中国・インドの自動車市場は好調に推移いたしました。輸出を主とするタイなどでは大幅なマイナス成長を記録するなどいたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は

18,597百万円（前年同期比21.1%減）、営業損失は237百万円（前年同期は1,224百万円の営業利益）、経常損失は472百万円（前年同期は890百万円の経常利益）、四半期純損失は828百万円（前年同期は488百万円の四半期純利益）となりました。

なお、現在の経営状況を鑑み、誠に遺憾ながら当第2四半期末の配当は見送らせていただくことになりました。

2. 事業の種類別セグメントの業績

プレス成形部品事業では、中国では好景気の影響もあり堅調に推移したものの、日本及びタイにおける輸出を含めた需要の低迷により、車体プレス部品、精密部品、試作品その他全ての品目について、売上高は減少しました。

この結果、売上高は17,005百万円（前年同期比16.9%減）、営業利益は68百万円（前年同期比94.5%減）となりました。

金型事業では、国内外において新機種立ち上がりの減少による金型の受注が減少したため、売上高は減少しました。

この結果、売上高は428百万円（前年同期比83.4%減）、営業利益は19百万円（前年同期比94.8%減）となりました。

自動車販売事業では、新車販売については税の減免措置等により前年と同水準で推移したものの、景気低迷による中古車市場の急激な落ち込みにより、中古車販売は減少しました。

この結果、売上高は1,217百万円（前年同期比0.1%減）、営業利益は6百万円（前年同期比61.4%増）となりました。

3. 所在地別セグメントの業績

日本では、景気の低迷により車体プレス部品及び精密部品の受注が落ち込んだほか、新機種立ち上がりの減少による金型の受注が減少したため、売上高は減少しました。

この結果、売上高は9,878百万円（前年同期比28.3%減）、営業利益は202百万円（前年同期比68.1%減）となりました。

アジアでは、中国においては好景気に支えられ売上高は大幅に増加したものの、タイにおいては長引く景気の後退により顧客が減産を行ったため売上高が減少しました。

この結果、売上高は9,405百万円（前年同期比15.3%減）、営業損失は25百万円（前年同期は1,136百万円の営業利益）となりました。

収益改善の具体的な取組みについて

当社グループは、2008年後半からの世界経済の低迷及び自動車関係市場の激変を踏まえて、経営資源の見直しと経営基盤の再構築を実施してまいりました。2008年4月より開始しました第4次中期経営計画「GIC PLAN 30（2008年4月～2011年3月）」で掲げた基本方針をベースとして、現在、2つの領域の緊急対策テーマを推進しております。低成長下でも生き残ることが出来る「ボトム生産体質」を構築し、業績V字回復に向けて全力で取り組んでまいります。

固定費の圧縮

ボトム生産に対応した経営資源の最適化を図るため、資産、要員及び財務の3つの観点からリストラクチャリング（構造改革）を推進し、固定費を抜本的に削減いたします。

①資産のリストラクチャリング

生産拠点の分散化による固定費や重複経費の削減を図るため、拠点の統廃合に着手しました。具体的には、金型生産の新田ダイテック工場、試作品生産の浅西ダイテック工場の生産を中止し、それぞれ上石津工場、ユーテック工場に統合をいたしました。また、2009年度中にはプレス部品の溶接工程がある鈴鹿工場の生産を終了し、物流基地として再活用するなど、聖域を設けないリストラクチャリングを推進いたします。

②要員のリストラクチャリング

2008年秋以降、人材配置の最適化により派遣従業員のゼロ化を実施し、併せて役員及び幹部従業員給与の減額等による人件費の削減に取り組んでまいりました。2009年8月にはさらに一步踏み込み、希望退職者の募集を行いました。

③財務のリストラクチャリング

固定資産だけでなく在庫をはじめとした流動資産の圧縮を進めております。さらに、住宅設備等を生産してまいりましたFRP事業の撤退前倒しによる不採算事業の見直し等により、総合的にバランスシートのスリム化、キャッシュの社外流出防止を図り、財務体質の向上を推進いたします。

変動費の削減

固定費の圧縮と併せ、生産体質の根幹である生産性の向上、原価の低減についても引き続き推進してまいります。特に、2009年1月より専属の事業改革プロジェクトチームを発足し展開してまいりました「材料歩留まり改善」と「購入費用削減」につきましては、体制を改め引き続き推進しております。部品や材料一つひとつを源流に遡って調査し、金型の修繕や作り方の見直し等を実施しております。また、テーマによっては得意先へ提案のうえ、連携して無駄な費用の総見直しを推進しております。

トピックス

好調な中国自動車市場

国内の自動車生産が低迷している一方で、中国では2009年の自動車生産台数が初めて1,000万台を突破（2009年10月中国汽车工業協会発表）、さらに年間販売台数は1,200万台を超えると予想されており、生産、販売ともに好調に推移しています。

当社グループは、中国広州市に広州丸順社、武漢市に武漢丸順社があり、それぞれ主に広汽本田汽車有限公司、東風本田汽車有限公司に自動車用部品を納入しています。

2009年4月広州丸順社では、プレス、溶接設備の増設のほか、金型及び治具・検査具の生産工場を新設・拡張するため、第2工場の拡張を行いました。また、武漢丸順社では、2009年9月に販売開始となった東風本田の新型車「スピリア」の部品納入を開始しています。

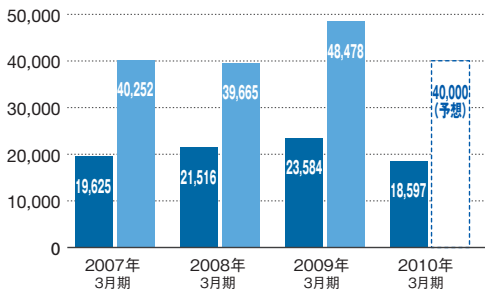
今後も成長が見込まれる中国自動車市場に期待し、当社グループは更なる業容の拡大を目指します。



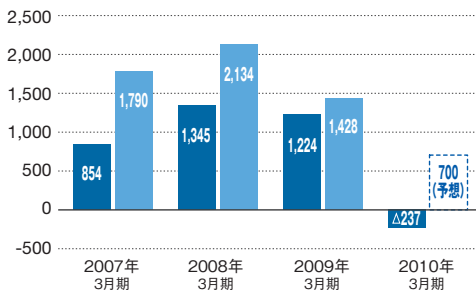
東風本田「スピリア」

連結決算ハイライト

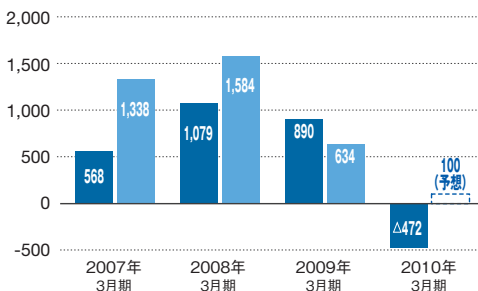
● 売上高 (単位: 百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



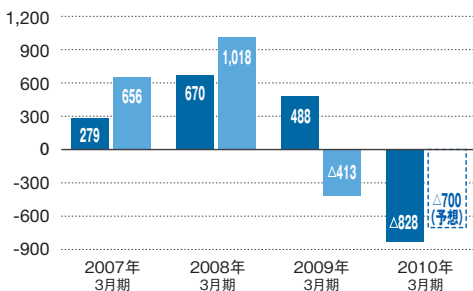
● 営業利益 (単位: 百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



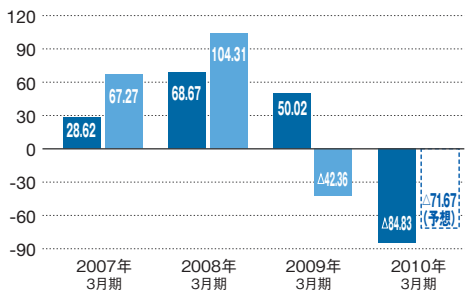
● 経常利益 (単位: 百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



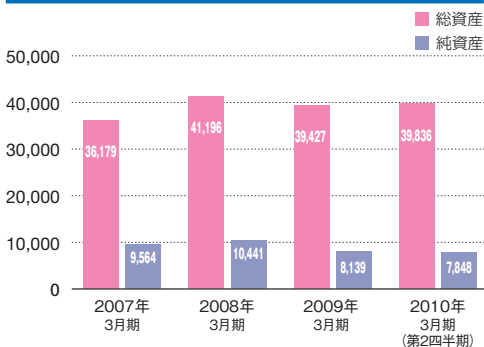
● 四半期純利益 (単位：百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



● 1株当たり四半期純利益 (単位：円) ■ 第2四半期 ■ 通期



● 総資産・純資産 (単位：百万円)



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期末 2009年9月30日現在	前期末 2009年3月31日現在
資産の部		
流動資産	11,914	12,636
固定資産	27,921	26,791
有形固定資産	25,628	24,517
無形固定資産	225	236
投資その他の資産	2,067	2,036
資 産 合 計	39,836	39,427
負債の部		
流動負債	19,416	18,717
固定負債	12,571	12,571
負 債 合 計	31,987	31,288
純資産の部		
株主資本	5,480	6,289
資 本 金	1,037	1,037
資 本 剰 余 金	935	935
利 益 剰 余 金	3,509	4,318
自 己 株 式	△2	△2
評 価 ・ 換 算 差 額 等	△36	△500
その他有価証券評価差額金	352	231
為 替 換 算 調 整 勘 定	△389	△732
少 数 株 主 持 分	2,404	2,350
純 資 産 合 計	7,848	8,139
負 債 純 資 産 合 計	39,836	39,427

四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期	前第2四半期
	2009年4月1日から 2009年9月30日まで	2008年4月1日から 2008年9月30日まで
売 上 高	18,597	23,584
売 上 原 価	17,164	20,409
販売費及び一般管理費	1,669	1,950
営業利益・損失(△)	△237	1,224
営業外収益	89	54
営業外費用	324	388
経常利益・損失(△)	△472	890
特 別 利 益	10	6
特 別 損 失	439	23
税金等調整前四半期純利益・損失(△)	△901	873
法 人 税 等	△15	177
少数株主利益・損失(△)	△57	207
四半期純利益・損失(△)	△828	488

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期	前第2四半期
	2009年4月1日から 2009年9月30日まで	2008年4月1日から 2008年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,271	1,446
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,076	△3,970
財務活動によるキャッシュ・フロー	△99	3,756
現金及び現金同等物に係る換算差額	41	13
現金及び現金同等物の増減額	137	1,246
現金及び現金同等物の期首残高	949	655
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,087	1,902

会社概要 (2009年9月30日現在)

商号	株式会社 丸順 (英文社名：MARUJUN CO., LTD.)
本社所在地	〒503-8510 岐阜県大垣市新田町2丁目1234番地
創業	昭和27年7月 (創業者・現会長 今川 順夫)
設立	昭和35年1月
資本金	10億3,755万円
事業内容	自動車用車体プレス部品の製造 自動車用精密プレス部品の製造 大型金型等、各種金型の設計・製作 治具・検査具の設計・製作
従業員数	個別604名／連結3,460名

役員 (2009年9月30日現在)

代表取締役社長	今川 喜章
取締役副社長	小高 光一
専務取締役	浅賀 徹
取締役	森 源夫
取締役	奥田 崇雄
取締役	磯久 毅
取締役	高塚 雅彦
取締役	猪熊 篤俊
取締役	齊藤 浩
常勤監査役	西部 隆雄
監査役	棚川 潔
監査役	片岡 信恒
監査役	岡田 正市
執行役員	山中 昭夫
執行役員	棚瀬 尚
執行役員	渡辺 敦

(注) 常勤監査役 西部隆雄氏、監査役 棚川潔氏、片岡信恒氏は、社外監査役であります。

株式の状況 (2009年9月30日現在)

株式数および株主数

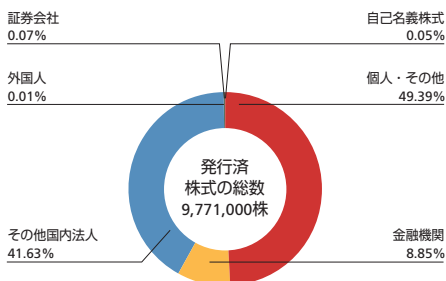
発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	9,771,000株
株主数	689名

大株主の状況

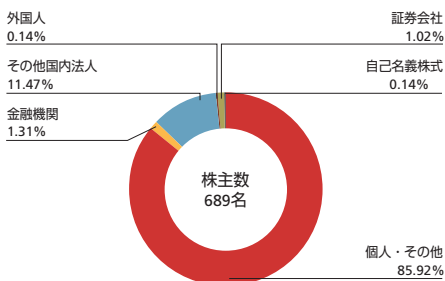
株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
本田技研工業株式会社	1,988,950	20.36
今川順夫	1,059,070	10.84
今川喜章	996,970	10.20
太平洋工業株式会社	463,950	4.75
名古屋中小企業投資育成株式会社	371,000	3.80
丸順従業員持株会	363,180	3.72
株式会社三菱東京UFJ銀行	325,000	3.33
今村金属株式会社	301,900	3.09
株式会社大垣共立銀行	300,000	3.07
有限会社イマガワ	300,000	3.07

株式分布状況

● 株式数構成比



● 株主数構成比



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・ 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店及び全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。



本株主通信は、環境保全のため再生紙を使用し、「植物油インキ」で印刷しています。